

荒川水系の特徴と課題

羽越水害と治水対策

- ・ 昭和 4 2 年 8 月 既往最大の羽越水害
- ・ 河道改修と洪水調節施設及び砂防施設で対応
- ・ 堤防は概成、今後、洪水調節の整備

災害前の姿に復元

- ・ 羽越水害により自然環境は破壊
- ・ 短期間に河道改修した結果、単調な河川へ
- ・ 現在、河道は良好な自然環境に復元しつつある

荒川の河川環境

- ・ 全国上位の水質
- ・ 地域を支えたサケ文化
- ・ 豊かな河川景観・河川環境
- ・ 魚の棲みやすい川づくり
- ・ 地域の歴史、文化を考えた川づくり

荒川における現状、特徴及び課題

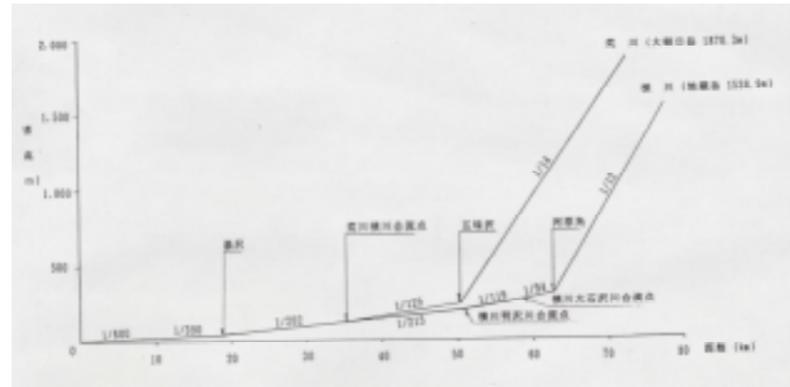
羽越水害と治水対策

・昭和42年8月に発生した羽越水害は、未曾有の大洪水となった



浸水被害に見まわれた荒川中流部(関川村)

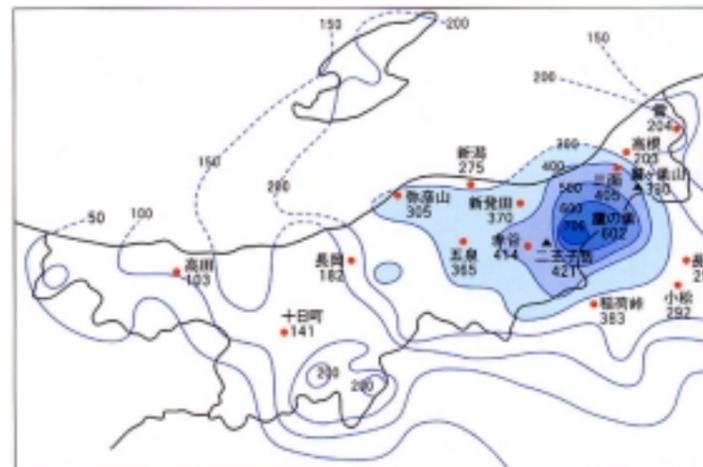
荒川河川縦断面図



上流域の本川及び支川は、河床が急勾配で土砂災害も引き起こしたため、治水と砂防による対策が必要



荒川上流部
大量の土砂堆積が生じた支川横川の被害(小国町)



羽越水害当時の降雨状況



水害後、拡幅改築が行われた荒川頭首工



岩船ダムの被災状況

昭和42年 8月羽越水害(既往最大)

- ・記録的な豪雨とともに、土砂流出を伴った甚大な被害
死者行方不明者90名(新潟88名、山形2名)
被災家屋11,095戸(新潟9,894戸、山形1,201戸)
浸水面積5,875ha
- ・雨が多く(約440mm/日)、流量も最大(花立地点で約8,000m³/s)
- ・羽越水害を契機に一級河川に指定し、直轄による事業化
- ・基準地点花立における基本高水を3,200m³/sから8,000m³/s(実績)に改定
- ・災害復旧に加え、抜本的な治水対策が開始

河道改修と洪水調節施設及び砂防施設で対応

- ・破堤した堤防の嵩上げは困難
- ・河川を可能な限り拡幅し流下能力を高めたが、地形条件から河道のみの対応では限界
- ・河道とダムによる治水対策及び砂防対策

昭和42年の実績洪水に対し、堤防は概成

洪水調節施設の整備が必要
(大石ダムはS53年度完成、現在は横川ダムを建設中)

砂防施設の配備
(直轄砂防事業を実施中)

荒川における現状、特徴及び課題

災害前の姿に復元

- ・羽越水害後、壊滅的な被害を受けた自然も、昔の姿に戻りつつある。

羽越水害の被害状況(関川村)



現在の河道状況(関川村)



羽越水害により自然環境は破壊

- ・壊滅的な被害を受け、植生も全て消失した

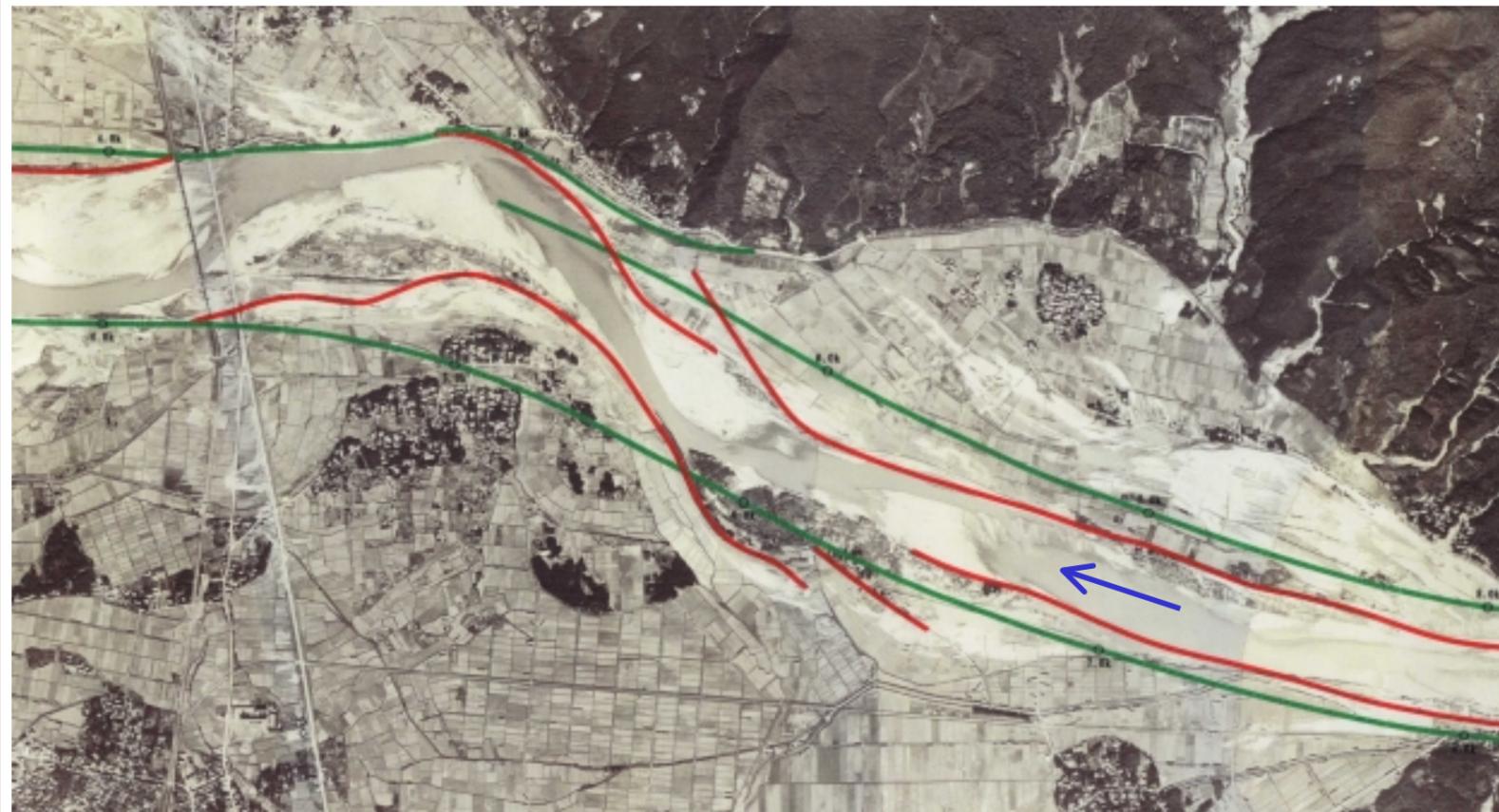
短期間に河道改修した結果、単調な河川へ

- ・河道を短期間で直線的に拡幅したことから、単調な河川へ

現在、河道は良好な自然環境に復元しつつある

- ・羽越水害後、30余年が経過し、昔の姿が戻りつつある

豊かな自然環境の保全



S42羽越水害前後の堤防比較図

- ・羽越水害により、河道の植生は全て流出し、その後の復旧・改修工事では、短期間で河道を直線的に拡幅。

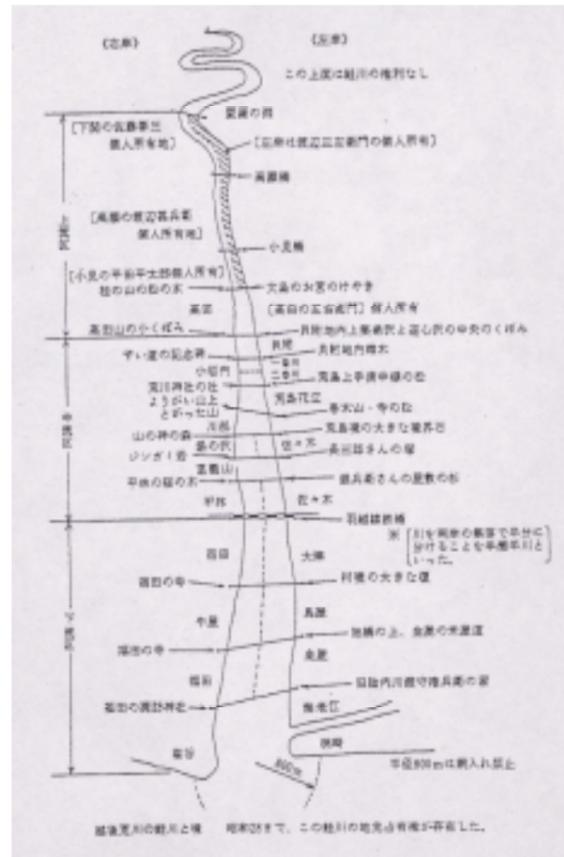
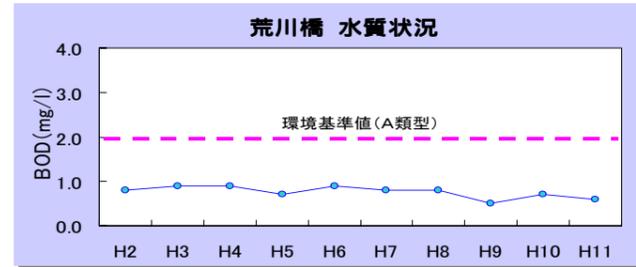
— S42羽越水害前の堤防
— H13羽越水害後の堤防
(撮影: S42年9月)

荒川における現状、特徴及び課題

荒川の河川環境

・全国上位の水質とサケ漁の文化

全国水質ランキング
平成12年度
全国167河川中 11位
北陸15河川中 3位



現在も行われているイクリ漁



サケの遡



景勝地でもある赤芝峡

荒川では、昭和24年まで地先占有と入会の形でサケ漁が行われていた

全国上位の水質

・水質は全国上位のきれいな川（全国11位）

地域を支えたサケ文化

- ・サケが多く、のぼるきれいな川
- ・荒川に張り付くように集落が分布
- ・荒川中・下流部では、サケを年貢で扱うほど、サケが重要視された

豊かな河川景観・河川環境

- ・多くの観光客を集める赤芝峡などの特徴的な景観
- ・アユ釣り、カジカ捕りに多くの人々が訪れる

魚の棲みやすい川づくり

地域の歴史・文化を考えた川づくり

豊かな河川環境の保全